

新型コロナワクチン接種は、生後6か月から受けられます

保護者の方へ

大切なお子さまの ワクチン接種について ご検討ください

不確かな情報に惑わされず、正しい知識と
情報でお子さまと一緒に考えください。

- 新型コロナワクチンの接種は、強制ではありませんが、感染のまん延の状況やワクチンの有効性等を踏まえ、接種を受けるよう努めていただくことになっています。
- 接種はあくまでもご本人の意思または保護者の方の同意に基づいて受けていただくものです。正しい情報をもとに、効果と安全性を十分理解したうえで、接種をする、しないを決めてください。ワクチンについて疑問や不安があるときは、かかりつけ医などにご相談ください。
- 周りに接種を強制したり、接種を受けていない人に差別的な扱いをすることがないように、お願いいたします。



効果



新型コロナワクチンを接種することで、新型コロナに感染しても症状が出にくくなります。また、初回接種(3回セットの接種)によって、オミクロン株流行下で70%以上の発症予防効果が確認されています。(注1)

必要性



小児においても中等症や重症例が確認されており、日本小児科学会では、生後6か月以上のすべての方への新型コロナワクチン接種が推奨されています。

安全性 (副反応)



新型コロナワクチンを接種した後は、注射部位の痛みが一番多く現れます。ほとんどの症状が軽度または中等度であり、現時点で得られている情報からは、安全性に重大な懸念は認められないと判断されています。

(注1)3回の接種が完了しなくても一定の効果は期待されます。

出典:特例承認に係る報告書より

新型コロナワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省 ホームページの「新型コロナワクチンについて」のページをご覧ください。

厚労 コロナワクチン

検索



副反応に関する医療相談体制

岐阜県では、新型コロナワクチン接種後の副反応を疑う症状を示した方への対応として、かかりつけ医など身近な医療機関では対応が困難な副反応の症状について、更なる検査・治療等を行う医療機関を円滑に受診出来る体制を構築しています。

接種を受けた医療機関やかかりつけ医等に受診・相談
頻度の高い軽度の副反応は、接種医・かかりつけ医で対応します

診療の結果、検査・治療等が必要と判断された場合、
これらの対応が行える医療機関を紹介



※加えて、岐阜大学医学部附属病院において、専門的な知見から、医療機関へのサポート体制を構築しています。

使用するワクチン

年齢	接種回数		接種ワクチン	接種間隔
	初回接種	追加接種		
6か月～4歳 (注1)	3回	—	乳幼児用ファイザー	2回目(1回目から3週間経過後) 3回目(2回目から8週間経過後)
5～11歳 (注2)	2回	1回	小児用ファイザー	2回目(1回目から3週間経過後)
				初回接種(2回目)から5か月经過後
12歳以上 (注3)	2回	1～3回	従来ワクチン	2回目(1回目から3週間経過後)
			オミクロン株対応ワクチン (注4)	初回接種(2回目)後、または追加接種の 前回接種から3か月经過後

(注1)3回の接種の途中で5歳になった場合も、3回目まで同じ乳幼児用ワクチンを接種することになります。

(注2)接種可能になる日は5歳の誕生日の前日にあたる日になります。(例)2018年2月2日生は2023年2月1日に5歳。

(注3)まだ接種がお済みでない保護者の方、ご家族の方がいらっしゃいましたら、この機会にぜひご確認ください。

(注4)オミクロン株対応ワクチンは、現時点(2023.2.8)で、1人1回の接種となります。

接種場所・予約

市内医療機関で実施しています。接種実施中の医療機関や予約方法については右二次元コード(市ウェブサイト)よりご確認ください。

※予約状況等により変更になる場合があります。

実施医療機関一覧
(6か月～4歳)



実施医療機関一覧
(5歳～11歳)



お問合せ先

■接種券再発行・予約について
各務原市コールセンター
TEL.058-215-8702
(平日9時～19時)

■副反応などについて
岐阜県コールセンター
TEL.058-272-8222
(9時～21時/土日・祝日も可)

■ワクチンの有効性や安全性について
厚生労働省
TEL.0120-761770
(9時～21時/土日・祝日も可)